

施工マニュアル

オギマット

— 特性 —

オギマットはヤシ繊維基盤にオギを植えつけ、圃場で育成させた張芝状の緑化資材です。大きさは1枚当たり 1.1 m²あるいは 2.0 m²で、取り扱いやすくスピーディーに現場に設置することが可能です。オギマットに植えつけられているオギは、地域在来の種子から生産・製品化するシステムをとっています。このシステムをとることで、より風土になじんだ景観を形成することができます。導入するオギマットは種子から生産し、圃場で十分に育成させたもの（地上部と地下部のバランスが取れた状態）を用い、導入後は良好な活着を実現します。植栽当初から良好に生育することで、その他の雑草や外来植物（セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ等）の侵入を抑制します。

また、オギマットは河川、湖、ため池、遊水池等の湿地帯や法面などに使用されます。広い面積を充実したオギマットで覆うことで、水際や法面を保護し、河岸や湖岸を浸食から守ります。

施工時の固定は、目串や固定ピンによって行いますが、最終的な固定はオギが土中に根を張ることによって完成します。ヤシ繊維の基盤は徐々に分解され、最終的には土にかえります。その時点で、植栽されたオギが十分に根を張り、オギ群落として機能します。

— 仕様 —

オギマット

■ MSM1100

W1000 mm (±100 mm) × L1100 mm (±100 mm)

基盤材質：ヤシ繊維+ポリプロピレンネット

■ MSM2000

W1000 mm (±100 mm) × L2000 mm (±100 mm)

基盤材質：ヤシ繊維+ポリプロピレンネット



— オギマット設置の流れ —

1. 設置高の設定
2. 地ごしらえ
3. オギマットの設置及び固定
4. 目土かけ
5. 施工終了時の確認

設置は以上の手順で進めてください。現場状況によっては、この手順で進めることが困難な場合があります。オギマットの固定は、芝串や固定ピン等によって行います。使用するピンの本数は設置場所によって異なりますが、13本/枚（MSM1100）もしくは23本/枚（MSM2000）を基準として固定します。

以下に各項目について説明を記載しておりますので、施工に際しましては必ず目を通してから行ってください。特に植物を扱う項目に関しましては、誤った施工をされますと植物が良好に活着しないばかりか、場合によっては枯死してしまうおそれもありますので、植物の取り扱いには十分にご注意下さい。

— 設置に際しての注意事項 —

オギマットは張芝と同様の使用方法でオギ群落を創出することができる緑化資材です。ただし、正しい施工が行われなかった場合や極端な急勾配、著しく土壌の少ない場所に設置された場合、その機能を十分に発揮できない場合があります。製品の設置場所や施工方法については、エスペックミック㈱が適切なアドバイスをいたします。

また、植物は生き物です。特に水分の不足は植物に重大なダメージを与えます。製品は座布団状に重なった状態で納品されます。納品後は速やかに施工して下さい。万が一すぐには施工に取り掛からない場合や、施工後に十分な水分が確保できない場合などは、製品を広げた状態で仮置きし、極端な高温や直射日光が当たり続けるような環境を極力避け、十分な水分を与えて保管してください。製品の設置や仮置きが適切に行われず植物体が枯死した場合、エスペックミック㈱は一切の保証を致しません。



1. 設置高の設定

オギは河川敷などの湿潤で排水が良好な土地に生育する多年生草本です。乾燥にも比較的強く、痩せた土地でもよく育ちます。しかし、常に水に浸かり続けるような場所や、著しく乾燥した状態が長く続くような環境では、オギは生育できず枯死してしまう恐れがありますので、設置高は適切な高さに設定して下さい。

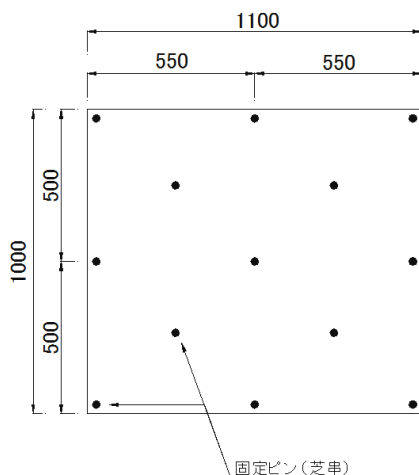
2. 地ごしらえ

オギマットを設置する際、最も重要なことは植栽されたオギを確実に活着させることです。設置する場所は、必要に応じて保水材や肥料の添加などの土壌改良を行わなければなりません。設置場所が重機によって押し固められた状態では根系の発達が妨げられ、良好な活着は期待できません。設置前には必ず耕耘を行ってください。オギマットと地面との接地面に空間が生じないように、大きな石や流木等がある場合には必ず取り除いて下さい。

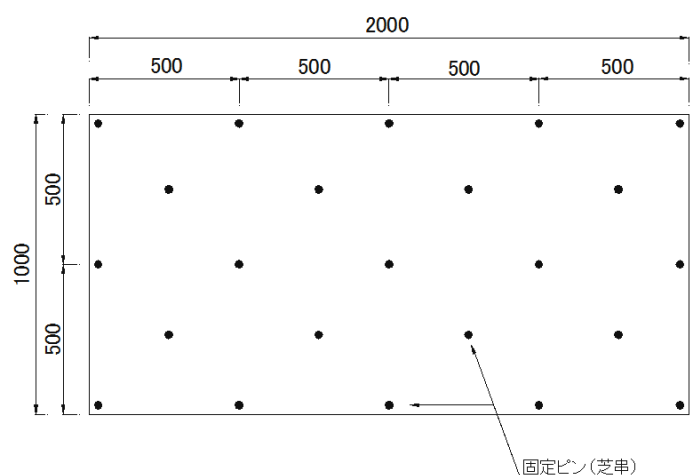


3. オギマットの設置及び固定

製品が現場に納品されたら速やかに製品を設置します。施工に当たっては、植物の根系を傷つけないよう十分に注意して下さい。オギマットの固定は芝串や固定ピン等を使用します（写真：固定ピン打ち込み時の状況）。敷設したオギマットに、固定ピンをしっかりと打ち込み固定します（下図参照）。



固定ピン(芝串)数量: 13本/枚



固定ピン(芝串)数量: 23本/枚

4. 目土かけ

製品の設置後は必ず目土かけをして下さい。目土かけをした後すぐに水まきを行い、上からかけた土がヤシ繊維と根系の間隙を埋めて水分を保持するようにしなければなりません。ヤシ繊維の基盤は水切れがよく、保水能力がほとんどないため、この作業を行わないと植物が枯死する可能性があります。目土は厚さ 2cm 程度を目安として下さい。

5. 施工終了時の確認

全ての手順が終了したら設置したオギマットに何らかの異常がないか確認して下さい。特に、目土かけが十分に行われずにオギの根系が露出した状態にあると、植物が枯死する原因となります。目土や製品の固定状況を、再度確認して下さい。



5ヵ月後



< オギ群落 >

オギの花期は 9 月～10 月頃で、ふさふさとした銀白色の穂が一面に広がります。オギの果穂はススキよりもふさふさとしています。

